

具体的な取り組みを4つの予算の柱に沿って紹介!

1 安心して暮らせるまちづくり

街の安全・安心を支える防災対策や、住み慣れた地域で、健康で安心して暮らし続けられるための取り組みを進めていきます。



健康診査や保健指導で健康を増進 8億5,200万円 拡充

40歳以上の国民健康保険加入者を対象に、生活習慣病予防のための健康診査や保健指導を引き続き実施。また、健康診査の未受診者に、人工知能(AI)を活用して個人の特性に合わせた受診案内を送付し、受診率向上を図ります。

子どもの見守り体制を強化

児童虐待を防ぐ体制を強化 1億1,600万円 拡充
妊娠から出産・育児まで切れ目のない支援を充実させるため、各区保健センターに母子保健相談員を配置。また、夜間や休日の虐待通報に素早く対応するため、児童相談所の職員を増やします。

(仮称)第二児童相談所の整備 3,200万円 新規
2カ所目の児童相談所の整備に向けて、基本計画を作成。また、整備が完了するまでの間、一時保護児童の増加に対応するため、仮設の一時保護所を設置します。

保育環境の充実

保育施設の定員を1,649人分拡大 48億3,000万円
私立保育所などの整備にかかる費用の補助を引き続き行い、待機児童対策を進めます。

保育人材の確保を支援 4億7,300万円
保育士として一定期間続けて勤務した方に一時金を給付。また、保育施設がパートタイム保育士などを雇用するための費用を補助します。



地震発生時などの停電に備えて 非常用電源を整備 14億2,800万円

保健所などの公共施設や、地震が起きたときに一時滞在施設となる駅前地下歩行空間に、非常用自家発電設備を設置。また、災害時に旅行者を受け入れる協定を結んだ宿泊施設に対して、非常用自家発電設備の整備にかかる費用を補助します。

冬の暮らしを支える除雪体制を強化 220億3,500万円 拡充

安全・安心な冬の道路環境を確保するため、バス路線の排雪や凍結路面の対策を強化。また、情報通信技術(ICT)を活用して除排雪を効率化するほか、西区八軒にある大規模融雪槽の性能を高めます。



2 女性の活躍を応援し、子どもが健やかに育つまちづくり

子育てしやすく、子どもたちが健やかに育つ街を目指して取り組んでいきます。

子育て世帯の負担を軽減

子どもにかかる医療費の助成対象を拡大 38億6,400万円 拡充
これまで小学2年生以下を対象としていた通院にかかる医療費助成を、小学3年生まで拡大します。

3歳未満の第2子保育料無償化の対象を拡大 3億400万円 拡充
世帯年収約360万円以上約640万円未満の世帯を対象に、新たに第1子の年齢や保育施設などの利用の有無にかかわらず、第2子以降の保育料を無料にします。

令和2年度の予算を見てみよう

4月から市がお金をどのように使うのかをまとめた、令和2年度の予算が完成しました。この特集では、本年度の予算のポイントや、主な取り組みを紹介。私たちの暮らしがどのように変わっていくのかを見ていきます。 [\[詳細\] 財政課 ☎211-2212](#)

予算とは

市の1年の収入と支出の計画を示したもの

収入 (歳入)

皆さんからの税金、国や北海道から交付されるお金、公共施設の利用料など

支出 (歳出)

福祉や教育、道路や公園の整備、除排雪にかかる費用など

大きく3種類に分けてお金を管理

一般会計 1兆295億円

福祉や教育など、基本的な事業を管理する会計

特別会計 3,713億円

国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別した管理が必要な会計

企業会計 2,701億円

地下鉄や水道など、利用料金の収入で運営している事業の会計

一般会計の内訳

※()内は前年度比。計数ごとに四捨五入しているため合計が一致しないことがあります。

収入 (歳入)

納税者数や一人当たりの所得の増加で個人市民税が増えたことや、家の新築・増築で固定資産税が増えたことなどにより、昨年度から市税の収入が57億円増加しています。

1兆295億円 (+68億円)		地方交付税 1,060億円 (-43億円)		
市税 3,366億円 (+57億円)	国庫支出金 2,419億円 (+50億円)	市債 986億円 (-46億円)	諸収入 833億円 (-63億円)	その他 1,632億円 (+113億円)

支出 (歳出)

私立保育施設の増加で施設運営に関する費用が増えたことなどにより、昨年度から保健福祉費が166億円増加しています。

1兆295億円 (+68億円)		諸支出金 843億円 (-2億円)		教育費 410億円 (-55億円)	
保健福祉費 4,139億円 (+166億円)	職員費 1,580億円 (+3億円)	土木費 1,077億円 (+12億円)	公債費 903億円 (+28億円)	経済費 695億円 (-86億円)	
				その他 648億円 (+3億円)	

整備イメージ



再開発事業を支援して街の魅力を向上 38億2,400万円

民間ビルの建築などの費用を補助し、再開発を促進。民間投資を呼び込みつつ、街の活性化につなげます。例えばJR苗穂駅北口西地区では、本年度中に苗穂駅北口と周辺の大型商業施設をつなぐ空中歩廊を整備予定。駅周辺の移動の利便性を高め、地域のにぎわいを生み出します。

◀来年春に工事が終わる苗穂駅北口西地区。現在、苗穂駅南側の北3東11周辺地区や、その他都心部の3地区でも再開発が進められている

4

魅力と活力にあふれる まちづくり

都心部周辺の再開発や施設整備を進めて、街のリニューアルと魅力の向上を図ります。



歩行者と自転車の安全・安心な 通行空間を創出 23億800万円

西2丁目線地下駐輪場や、6月にオープンする北1西6駐輪場など、都心部や駅周辺に駐輪場を整備。また、西5丁目線など都心部の車道に、自転車の通行位置を示す青色の路面表示の設置を引き続き行います。



▲約1,300台を止められる西2丁目線地下駐輪場は、令和4年度オープン予定

環境に優しいエネルギー設備の 導入を促進 1億3,600万円 拡充



蓄電池を併設した太陽光発電機器など、住宅用の再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の購入費用を補助。また、消費エネルギーを大幅に削減するビルや集合住宅の設計費用を補助する制度を新設します。

企業の誘致を推進 10億2,000万円 拡充



本社機能の札幌への移転や、IT企業の新設などへの補助を引き続き実施します。さらに、都心部のオフィス不足を解消するため、一定規模以上のオフィスの整備に対する補助制度を新設。企業を呼び込むとともに、安定した雇用を生み出します。

本社機能の札幌への移転や、IT企業の新設などへの補助を引き続き実施します。さらに、都心部のオフィス不足を解消するため、一定規模以上のオフィスの整備に対する補助制度を新設。企業を呼び込むとともに、安定した雇用を生み出します。

3

人材を育み成長を続ける 躍動のまちづくり

雇用の確保、観光資源の充実、国内外から人を呼び込む大規模イベントの開催などにより、経済の活性化やにぎわいあふれるまちづくりを推進していきます。



札幌国際芸術祭2020を開催 4億100万円 拡充

12月から来年2月にかけて、3回目となる札幌国際芸術祭を開催。初の冬季開催となる今回は、札幌ならではの寒冷な気候や雪などを生かしたアート作品を展開し、国内外からの集客につなげます。



三上真子《欲望のコード》2010
photo by Ryuichi Maruo(YCAM)
Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media (YCAM)

オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

東京2020オリンピックの開催 8億600万円 拡充

札幌で開催されるマラソン・競歩・サッカー競技の成功に向けて、ボランティアによるおもてなしや沿道での応援促進など、多くの市民が参画できる事業や、パブリックビューイングなど、誰もが気軽に体感できる事業を実施します。

冬季オリンピック・パラリンピックの招致 3億1,700万円 拡充

2030年大会の招致に向けて、大会計画の検討を進めるほか、小学生がオリンピック・パラリンピックを学ぶ機会をつくるなど、大会招致への機運を高めます。

北3条広場にスケートリンクを設置 3,000万円 新規

冬の新たな観光スポットとして、12月から来年2月まで、北3条広場にスケートリンクを設置。一般開放するほか、周辺のイルミネーションと一体になった魅力的な空間を演出します。



誰もが安心して暮らし 魅力と活力にあふれる街を目指して

この特集で紹介した以外にも、市ではさまざまな取り組みを進めていきますが、誰もが暮らしやすく笑顔があふれる街にするためには、皆さんの協力が必要です。力を合わせて住みよい街をつくっていきましょう。



市債の状況は？

本来国が負担するお金を市が一時的に肩代わりする臨時財政対策債が増えていることなどにより、市の借金である市債の残高は昨年度よりも増える見込みです。引き続き、将来に過度な負担を残さないよう、事業費の精査や効率的な事業の執行などにより、市債残高の抑制に努めていきます。

■市債残高の推移

